



発行：日本生理人類学会
生理人類士認定委員会

編集：立川公子（武蔵野大学）

生理人類士 認定制度の御案内

日本生理人類学会は、人類の本質に基づく、健康で快適な環境の構築、評価、問題解決に携わり得る人材育成のため、西暦2000年に生理人類士認定制度を創設しました。これまで多くの方々が生理人類士資格を取得し各分野で活躍されています。当委員会は、これまでの取り組みを踏まえ、資格内容の一層の充実を目指しています。

本制度の資格には下記3種があります。

- (1) アメニティプランナー
(生理人類士1級)
- (2) アメニティコーディネーター
(生理人類士準1級)
- (3) アメニティスペシャリスト
(生理人類士2級)

(1) および (2) は日本生理人類学会員の内、前者は企業や大学等において豊富な実績のある方々を、後者は現在御活躍中の方々を対象としています。また (3) は本学会への所属は問わず、大学、短期大学等の学生あるいは社会人など、広く対象としています。

巻頭言

山崎和彦（実践女子大学）

名称の由来

海外会員から、生理人類士の資格を得たいので便宜を図って欲しいといった問い合わせがあれば私はうろたえる。今日、国際化の重要性が唱えられており、英文を添える作業がその第一歩となるが、本制度では大きな問題にぶつかってしまう。

「生理人類学」の英訳が「Physiological Anthropology」であるからには「生理人類士資格」についてはこれらの英単語が使用されるべきであろう。ところがなぜ「アメニティ」なのか。これに「プランナー」「コーディネーター」「スペシャリスト」をくっ付け、そのまま英文にするのは簡単であるが、世界の人々に納得してもらえるだろうか。

本制度発足時における議論では、漢字およびカタカナによる表現が検討され、いずれは本資格を国際化するという考えはなかった。また、履歴書の資格欄では、漢字に続けてアメニティなになにと記せば、眺めが賑やかになって具合がよかろう、といった思惑が一部にあったようである。

漢字とカタカナのどちらに基づき英文化したものか。後者に従う方が全般的に整合するであろう。ともあれ生理人類学とアメニティはぴったり一致するわけではない。本資格取得に際しては、両方の専門家になることを意識して学習に取り組んでいただきたい。

生理人類士資格認定者数

	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	合計
1級	6	3	3	0	2	0	0	4	3	6	5	1	3	0	2	38
準1級	5	5	16	5	12	14	12	12	9	5	5	8	14	15	9	146
2級	24	86	134	95	113	110	91	57	78	63	82	104	84	110	70	1301

指定校認定申請要領

生理人類士指定校に認定されると、受験者には特典が与えられます。(指定校の認定を受けるには、カリキュラムにおいて、受験資格要件を満たす科目が開講されている必要があります。)

認定を申請される場合、下記①～③を封筒に入れ、「指定校認定申請書在中」と朱書し、事務局へ郵送して下さい。当委員会では速やかに審査を行い、結果についてお知らせします。なお、デジタル化した文書の送信による申請も可とします。手続その他において不明な点があれば、事務局に照会して下さい。

①指定校認定申請書(様式 B-1※)

代表者の署名と押印を必要とします。代表者には各教育機関の事情に応じて適切な人物を充てて下さい。なお、指定校責任者は代表者となることができます。指定校責任者の役割は、受験者の統括、試験問題の管理、試験の実施、試験監督等です(認定制度規程※参照)。

②資格要件に関わる開講科目一覧表(様式 B-2※)

生理人類士準1級および2級における受験資格要件に該当する、開講されている科目のリストを作成してください。単位数は各教育機関の学則に準じるものとします。不明な場合、事務局に照会して下さい。なお、一人の指定校責任者の下、複数の学科あるいは専攻をまとめて申請することができます。その場合、学科あるいは専攻ごとに書類(様式 B-2※)を作成して下さい。

③返信用切手(120円)

※学会ホームページにてダウンロード出来ます。



指定校責任者挨拶

川村広則(東北文化学園大学)

東北文化学園大学/科学技術学部/建築環境学科は「環境設備エンジニアコース」と「住環境プランナーコース」の2コースで構成されており、主に健康・福祉住環境、設備・環境工学、建築・インテリア工学などの各分野を核として教育を行っております。特に「住環境プランナーコース」は健康快適な住環境の創造が主たるテーマで、先の震災を契機に、インテリアやリフォーム分野への需要が高まっていることから、「健康環境」「健康福祉施設」「病院・クリニック建築」「インテリア」「リフォーム」分野を重点的に扱う内容となっています。また、学生の就職先として健康産業・アメニティ産業を希望する者も少なくありません。当学科では在学中の資格取得を目指した「資格取得プログラム」があり、「福祉住環境コーディネータ」や「シックハウス診断士」などを行っておりますが、2010年度からは「アメニティ資格講座」も同プログラムの一つとして生理人類士の受験体制強化を図りました。更に2012年度のカリキュラム改正の際には、生理人類士の基礎を学ぶ科目「人の感覚・生理と環境」を開講し、資格取得も視野に入れた授業を行っております。生理人類士2級の合格者はこれまで30名余りとなっておりますが、今後も取得を目指す学生が増えることを期待しております。

2014年度 表彰者氏名

《準1級》

大西麗花・玉岡菜緒(福岡女学院大学)、梶山まどか(群馬大学) 以上3名

《2級》

阿部奈緒子(福岡女学院大学)、亀山万里(島根県立大学短期大学部)、安保早苗・橘奈津美(武蔵野大学)、川島美砂(群馬大学)、木幡佑也(東北文化学園大学)、藤井円花(金城学院大学)、山下萌子(実践女子大学) 以上9名

生理人類士の声

生理人類士準1級

大西麗花（福岡女学院大学 心理学科）

今回のアメニティ資格試験は2級受験に引き続き、2回目でした。2級では、生理人類学の講義を受けていたこともあったため理解をしながら学習できました。今回受験した準1級は、2級の内容からさらに掘り下げた内容が多く、難しい点が多かったため、キーワードを抑えながら理解を深めて学習をしました。この生理人類学を通して学んだことは、これまで知ることの無かった光が人に与える影響や自分を取り巻く生活環境に目を向け、環境の問題点に気づくことが出来る視点をもてるようになったと言う事です。環境の悪い点に気づき、活用の仕方により環境を改善できることを知ることができるようになることがアメニティコーディネーターだと私は思います。無事に準1級に合格出来たので、この資格を活かして仕事をする上での快適さなど職場を含む生活環境に活用させていきたいと思っています。

玉岡菜緒（福岡女学院大学 心理学科）

大学で生理人類学を受講して、生理人類学に興味を持ち資格を取得しようと思い受験しました。前回受験した2級に比べて、理解しなければならぬことが増えたけど関心を持って学ぶことができました。生理

人類学では、私たちの身体の構造や環境適応能力など人間の機能特性だけでなく、人工照明や冷・暖房の普及、交通機関の機械化などによって生活が便利になる一方で著しく生活環境が変化し、昼夜逆転の生活や大気汚染など人間はさまざまな問題に直面している事実も知ることができました。生理人類学で学んだ人間の体の働きや心の働きについての知識をいかして、人間に優しい環境とはどんな環境なのかを考えることができるのではないかなと思いました。私は、この資格はこれからの生活環境を考えていくうえでとてもプラスになるものだと思うので、これからも関心を持って生理人類学について学んでいきたいと思っています。

梶山まどか（群馬大学教育 学部）

生理人類士試験を受験して

私は、教育学部の家政専攻に在籍しており、来春から小学校教員になります。生理人類学を学ぶことで、子どもたちの学校生活を支援するための力を付けたい、今後の自分に何らかのプラスになればと思い受験しました。身近でありながら曖昧だった人の身体や、それを取り巻く環境について学ぶことは、新たな気づきや、これまでの学修の整理につながりました。

特に睡眠や生体リズムに関する章は、食事や運動と並んで重要であると、わかっていたつもりでしたが、自身はもとよ

り、生活習慣を身につけていく時期の子どもにとって、大きな影響を及ぼしていると思いました。アメニティコーディネーターの資格を持つ教員として、子どもたちが快適な学校生活を送れるよう努めていきたいです。

生理人類士2級

川島美砂（群馬大学教育学 部）

資格取得を通じて

私が生理人類士の資格取得を決めた理由は、大学で学んだ学問のなかでも、非常に興味を持った分野であるアメニティを深く学ぶことができると考えたからです。私たち人間は、変わりゆく多様な環境をどのように感じ、どのように適応してきたのかということに、非常に興味を持っていました。そのため、試験内容は非常に興味深く、学ぶ楽しさを感じながら取り組むことができました。就職をするにあたって、この分野を追究することは難しくなるとは思いますが、資格取得を通じて、環境と人間関係を意識する視点をもつことができたと思います。何気ない普段の生活から、より多くの気づきが得られ、より豊かな生活が送れるのではないかと考えます。

木幡佑也（東北文化学園大 学科学技術学部）

生理人類士試験を受けて

大学2年生になり生理人類学について学びました。初めは講義の内容が難しく授業を受けるのが大変でした。しかし講

義が進むにつれて、ヒトの身体の構造や感覚、神経系、衣食住や環境など多くの分野があり、建築分野とも深い関わりがあることを改めて思いました。私が所属している「建築環境学科」は様々な資格プロジェクトが開講されています。そこで生理人類士の資格のことを知りました。資格対策の講義では範囲が広く不安になりましたが、私たち自身に関連する内容なので勉強も苦ではありませんでした。そして合格したと分かったときはとても嬉しかったです。これからはこの資格を通して学んだ知識を日頃の生活に活かしていけたらと思います。

安保早苗（武蔵野大学人間 科学部）

生理人類士資格を受験して

生理人類士については学科に向けての紹介が何度かあり、関心がありました。ゼミで再度紹介があり、就職のためにも資格を取ろうと思っており、今回受験しました。

資格取得のための特別講座を受けましたが、押えておくべき点が多かったため、正直不安が大きかったです。しかし一つ一つ見ると、興味深い内容や学科・ゼミで学んでいる箇所があるなど、身近に感じる内容が多かったことが印象的でした。

生理人類士を通して学んだことは、まずは卒業論文を含め今後のゼミの活動、また学科の講義に活かしていこうと思っています。加えて、当初の目的で

生理人類士 2014年度資格認定者

《準1級》

大西麗花・玉岡菜緒・徳井怜莉・堂山唯奈・牧口千穂・山下真由子（福岡女学院大学）、高麗千秋・梶山まどか・小竹真弓（群馬大学）
以上9名

《2級》

齊藤豊・内村純・笠井由美・佐久間裕子・高木里佳・林英恵・橘奈津美・小林果穂・増田日向子・加藤稔也・木下彩子・齋藤香織・恩田あかね・岸本葵・酒井志帆・小林優衣・安保早苗・遠山和樹・近藤友貴・矢田沙織・岩部智子・福田飛鳥・吉田梨花・浅野真由・森垣恵利南・白石郁・松村夏希・内藤万莉・奥山菜穂・徳永裕香利（武蔵野大学）、唐澤菜里・師玉若葉・虻川佳奈子・加藤瞳・後藤輝美・丹司ゆい・西山光・日置奈菜・平野真優・山下萌子（実践女子大学）、井上七海・岩崎玲・阿部奈緒子・植田有紀・川原千春・岡野由里香・中島千佳・林未来子・福野明日菜・宝来佑望圭・溝部早紀・山根寿々子（福岡女学院大学）、金神依里・金森夕貴・藤井円花（金城学院大学）、川島美砂（群馬大学）、菊地慧悟・五十嵐広大・菊地侑那・木幡佑也・鈴木愛・長谷川修哉・茂木翔・石倉直弥・白石衛・千葉優汰・野田武詳・吉野匠（東北文化学園大学）、亀山万里・大江伸也（島根県立大学短期大学部）
以上70名

日本生理人類学会資格事務局

〒162-0801
東京都新宿区山吹町 358-5
アカデミーセンター
TEL : 03-5389-6218
e-mail : jspa-post@bunken.co.jp

あった就職でも活かせるよう、もう一度生理人類学と向き合ってみようと思っています。

亀山万里（島根県立大学短期大学部）

一年半の成果

私は現在の学校に入学したとき、自分を変えるためにまだやったことのないことに挑戦していこうと決めて、数多くの授業を履修しさまざまな活動を行ってきました。一年半が経った今、その成果のひとつとして生理人類士2級という資格を取得することができたと考えています。私がこの資格を取得する過程で得たものは、考察する力です。実験の結果や映像を見て、なぜそうなるのか、というように物事の起こる理由を考えるようになりました。実験で実際に計測してわかったことや資格試験の直前の勉強で学んだ知識は今後の日常生活でも応用していけると考えています。この資格を取得する中で得たもの、学んだものを忘れないように、今後も知識を深めていきたいと思っています。

阿部奈緒子（福岡女学院大学心理学科）

生理人類学、生理人類士という言葉を知ったのは大学に入学してからです。最初にこの言葉を聞いたときは、なんだか堅苦しい学問という印象を受け、同時に一体どのようなことを

学ぶのかという好奇心から大学の講義を受けました。実際に受講してみると、実は私たちの生活と密接なかかわりのある学問であることがわかり、もっと知りたいという気持ちが生まれ、生理人類士の資格をぜひ獲得したいと思い、資格を受けました。

資格を獲得するために日々勉強はしました。けれど、勉強すればするほど、ヒトの身体機能や、環境に適応していく能力に驚かされ、改めて、ヒトが持つ能力のすごさに気づかされるばかりでした。私にとって、生理人類士の資格獲得のための勉強はとても有意義なものでありました。今後、ますますヒトを取り巻く環境は変化し、それに伴って生理人類学という学問も発展していくと考えています。今後、発展していくであろうこの学問をもっと学んでいきたいと考えています。

加藤瞳（実践女子大学生生活環境学科）

スノーボードの快適性

スノーボードの合宿を終えて戻ってきた。転倒すると痛い。吹雪は辛い。筋肉痛も耐え難い。しかしゲレンデはそれらの不快を上回る喜びに満ちている。なぜだろう。

サルが多くは枝々の間をダイナミックに移動する。加速度を意のままに制御するには熟

練を要し、落下の恐怖と隣り合わせである。これは雪面を滑走する状況に似る。つまり人類の祖先が感じたはずの解放感や爽快感が現代の我々に蘇るのだろう。

だからスノーボードはやめられない。またゲレンデへ行きたい。しかしその前に多くの課題を終えねばならない。こうした苦労を経た上での楽しみであるから、類人猿より私の方が喜びはずっと大きいと思う。

藤井円花（金城学院大学生生活環境学部）

資格を取得して

わたしがこの検定を受験しようと思ったのは「あらゆる人が暮らしやすい生活環境を提案できる検定」とあり、自分が今まで大学で学んだことを活かすことができ人の役に立てる検定だということに魅力を感じたことがきっかけです。いざ勉強を始めてみると知らなかったことの方が多く自分の知識不足を感じましたが、知らないことを知る楽しさやより深く知る大切さも感じることで積極的に学習し知識を増やすことができました。今後はこの資格を取得するために学んだことを活かして生活環境の改善や、あらゆる人が快適な生活をするための役に立てればと考えています。

2015年度資格認定試験

申込期間 2015年9月18日（金）～10月9日（金）

試験日 準1級・2級：2015年11月28日（土）、13:00～14:00

1級：2015年11月29日（日）